



さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ

～笑顔あふれる幼稚園～

NO.1 平成31年4月25日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL:<http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

桜の花びらが舞う平成最後の始業式、入園式からもうすぐ新しい元号、令和元年の5月になります。今年の4月は晴れの日が続き、園庭で元気に遊ぶ子どもたちの姿が多く見られました。その子どもたちをあたたかく見守るように、花組保育室側の「さくらんぼ」の実も赤く色づき始めました。赤く実った「さくらんぼ」は年長児の星組が力を合わせて収穫し、それを園のみんなで分け合っていたことが園の文化となっています。春の味覚と新年度の楽しい生活を与えてくれる園庭の「さくらんぼ」にちなんで、園での楽しい生活とそこでの育ちを伝える通信「さくらんぼ」をお届けします。

今回は新学期をどのように過ごしてきたか、それぞれの年齢の姿とともに、保育者の思いや願いをお伝えしようと思います。



憧れのお兄さんお姉さんになれてうれしい星組さん

幼稚園での年長児クラス星組は、年下の花組・風組にとって大きなあこがれの存在です。ホットケーキやカレーをつくってご馳走してくれたり一輪車や跳び箱を上手にできたり、いろいろなお店屋さんを開いて楽しませてくれたりなど、「すごいな」という姿を目にやきつけて、憧れの星組になるからです。

星組がみんなで力を合わせて進めることの楽しさを味わえるように、始業式後からすぐにグループや学年での活動がスタートしました。グループ対抗で玉を集めるリレーや玉入れなどの簡単なルールのある遊びや本当に力を合わせる綱引きなどをしました。いつもの仲良しの友達との遊びだけでなく、いろいろな友達と仲間になってかわり、順番を決めたり、遊び方やルールを伝え合ったりしながら遊びを進めます。順番が待てなかったり、勝てなくて悲しくなったり、勝ちたくてするをしてしまったりする子どももいます。そんな友達に「それはなしよ」と伝える子ども、悲しんでいる友達を励ます子ども、もめている様子を見守り気にかけている子どもなどの姿が見られます。みんなで楽しもうとする必要感から子どもたちは様々なかかわり方、気のかけ方をしていきます。すぐには「協同して楽しむ子ども集団」になれるものではありません。「みんなで一緒にやりたい、楽しみたい」と強く思える機会や環境を子どもたちのペースを見ながら提供し、子どもたちに様々な挑戦や葛藤を見守り支え、育てていこうと思っています。

昨年度の星組が新しい星組のために植えてくれていたブロッコリーが例年よりも早く実り、少し硬くなっていましたが、グループで初めての料理「ブロッコリーの和え物」に使いました。グループでの様々なゲーム遊びを楽しんだ成果と「つくって食べる」魅力とで、順番に代わり合って混ぜたり、分け合って食べたりすることが楽しい雰囲気です。「ブロッコリーの和え物」はすべての子どもが食べ、お皿には何も残りませんでした。このような体験を少しずつ重ねながら育てていきたいと思っています。(高田)

はじめましての風組さん♪

子どもたちを待っていたかのように、幼稚園の桜やチューリップの花が咲いている中、風組さんの生活が始まりました！

進級の子どもたちは花組の時とは違う、『はじめましての保育室』と『はじめましての先生』にドキドキワクワク。新入の子どもたちよりも一足先に生活が始まりました。空いているロッカーを見て、「ここはまだ来てないよ。」とTくんが言いました。「もう少ししたらね、新しいお友達が来るんだよ。」と話す、と「やったー！！」と大喜びでした。

新入の子どもたちは、『はじめましての幼稚園』の入園式に緊張した面持ちで来ていましたが、保護者の方がお話を聞かれている間、とても穏やかに話をしたり遊んだりしていました。シール帳を渡して、「明日からこれを持っておいでね。」と渡すと、しっかり持ち、さようならをした姿が印象的でした。

そして、ついに風組全員がそろった日、朝のあいさつをしながら進級の子どもたちに「今日から新しいお友達が来たんだよ。よろしくね。」と声をかけると、お互い『はじめましてのお友達』にドキドキしていました。しかし、少しすると、一緒にミニカーや恐竜で遊んだり色水で遊んだり、砂場で遊んだりしている姿も見られました。「車が通りまーす。」「ここは海なんよ。」「おばけ屋敷のショーのナレーションするね。」「わあ、ジュースみたい！」と、本当にいろいろなことを思い浮かべながら楽しんでいました。中には、自分がしたいことを伝えようかどうしようか迷っている姿も見られます。じっと見つめてくれているDくん「外に出たい？」と聞くと、首を縦に振りました。次に、「外に出て一緒にダンゴムシ探しに行く？」と聞くと、今度は首を横に振りました。「もしかして砂場で遊びたい？」と聞くと、「うん。」と返事をしてくれました。「帽子かぶって、園庭靴履いて行こうね。」と声をかけると、うれしそうに砂場へ行き、お山をつかってトンネルを掘っていました。つながると、「つながったね！」と先生と目を合わせ喜んでいました。そんな楽しい雰囲気は周りの子どもたちへも伝わり、「いれて。」「いいよ。」のやりとりの後、またトンネルを掘ったり、山の上にさら粉をかけたりして、遊びが続いていきました。

思いの出し方は本当にそれぞれで、声をかけてくる子どももいれば、見つめてみたり、手をひいてみたりする子どももいて、一生懸

命私達に伝えようとしていることがよくわかった4月でした。思いが言葉になる前の子どもたちの思いの表現も大事にしながら、そして子どもたちが『はじめまして』の出来事に出会う瞬間を大事にしながら、少しずつしっかりと信頼関係を築いていきたいと思っています。一年間、どうぞよろしく願いいたします。(厚東)



ドキドキワクワクの花組さん！

入園式を終え、子どもたちの幼稚園生活が始まりました。初めてお家の人と離れて幼稚園で過ごす子どもたち。登園してきた子どもたちは、ワクワクより緊張のドキドキの気持ちでいっぱいです。最初は、お家の人と離れがたく涙があふれてしまう子どももいました。「お母さん一緒にいたかったね。でもね、幼稚園には楽しいことがたくさんあるんだよ！」と子どもたちの不安な気持ちを受けとめながら、遊びに誘っていきました。ぬり絵やお絵描きをしながらホッと落ち着く子ども、ウサギやカメに餌をあげたり触ったりして笑顔になる子ども、保育者の膝に座って絵本を読みながら涙が止まる子ども…。子どもたちの気持ちが切り替わるポイントはそれぞれですが、どの子どもたちも少しずつ安心して園での生活を楽めるようになってきました。

「幼稚園って楽しいでしょう。」と微笑んでくれるように、毎日、暖かな春の陽気の中でおひさまが顔をを見せてくれました。おかげで室内だけでなく、戸外での遊びもたくさん楽しむことができました。砂場で型抜きをしたり、水と一緒に葉や花びらを混ぜてご飯をついたり、子どもたちは砂や水に触れて嬉しそうに笑っていました。

初日は保育者が砂場で型抜きをする様子をじっと見ていたMちゃんも、段々慣れてきたようで「先生、できたよ！」と自分で型抜きができたことを伝えに来るようになりました。「おいしそうなケーキができたね。」と笑顔で返すとMちゃんの顔もパッと明るくなります。周りにいたHくんもつくった泥だんごを保育者の前に持ってきました。「食べていいの？あんこがたっぷり甘そうね！」と答えると、にこにこの笑顔になり、もう一個もう二個とくり返し泥だんごをつかって遊んでいました。砂場だけでなく、ままごとや家族ごっこの中でも、「先生、見て！」という子どもたちの姿がたくさんありました。子どもたちは、幼稚園生活の中で、まずは保育者を心の拠り所にしてのびのびと改めて実感しました。保育者とのやりとりの中で安心感が生まれ、好きな遊びを楽しめるようになっていくのだと思います。子どもの世界が少しずつ広がっていくことを楽しみに、まずは「ようちえんってたのしいな！せんせいといっしょでうれしいな！」と感じてほしいと思います。日に日に緊張のドキドキではなく、楽しみのドキドキやワクワクが増えていっていることを嬉しく思っています。一年間、どうぞよろしく願いいたします。

(高橋)

編集担当 高田

